

瓦版

かなべ未来会議

みんなで、神辺エリアの未来について考えるワークショップを開催しました。神辺駅のまわりを、もっと住みやすい場所にするためのアイデアを話し合ったり、楽しく暮らせる未来について話し合っています。

チャレンジ
の視察
2025.2.9
(sun)
@雲南市

【雲南市へ視察】かなべ未来会議・第四回レポート チャレンジの事例をみることで、活動のヒントに

ビジョンの作成に併せてかなべ未来会議の活動状況を報告してきた瓦版。今回は最後となりますが、ビジョン作成の次のステップにどのようなのか、このヒントを求めて、かなべ未来会議参加者の有志で行った島根県雲南市のチャレンジ事例についての視察報告です。

まずはまちのワーキングスペース「オトナリ」にて、雲南市役所の武田さんより、「ソーシャルチャレンジバレー」の取り組みを紹介いただきました。

平成16年に6つの町村が合併して誕生した雲南市は、武田さん曰く「日本の25年先をいく高齢化社会」。そこを逆手にとり「課題解決先進地」になるうということで、「定住基盤の整備」と「地域課題解決にチャレンジする『人材の育成・確保』」を戦略として掲げます。

「①大人チャレンジ」は合併を機に誕生した、小学校区域がベースの「地域自主組織」で、地域課題を地域住民自ら解決する取り組み。「②子どもチャレンジ」は高校で地域の資源を活かした「雲南式探究プログラム」の実施など。「③若者チャレンジ」は人材育成ならびに地域課題解決の起業をサポートする取り組み。「④企業チャレンジ」は企業との協働による地域課題解決の取り組み。

平成30年にはチャレンジ資金やサポートを提供する制度も整え、チャレンジ数は、令和5年までの6年間で130プロジェクト・17事業にのびます。令和元年には全国的にも珍しい市民のチャレンジを応援する条例が制定され、令和2年には市民が事業を助成・投資する仕組みとして「うんなんこコミュニティ財団」も設立されました。

「人口減少には抗えません。その中で、地域で暮らし続けていくためにはどういう環境をつくるかを考えました。基盤となるのは地域自治組織のような小さな拠点です。そこを軸に暮らしをもう一度再構築する。時代の流れの中で必要なところは変えていきたいです。」（武田さん）

チャレンジの事例を視察して、イメージを具体的にします

「光プロジェクト株式会社」の杉村さん

「若者チャレンジ」の人材育成の取り組み「幸雲南塾」の7期生の杉村さん。駅前のショッピングセンターに「ひかりサロン雲南」をオープンし、介護予防と買い物支援を合わせた「ショッピングリハビリ」事業を展開されています。「ショッピングリハビリ」では「福祉」をモットーに、明るい色やイラストなどで楽しく通いたくなる場を作られています。

そして、「ひかりサロン雲南」の横にあるデジタル探究施設「ピコテラス」。地方のデジタル格差をなくすこと、表現することを楽しむことを目的に、杉村さんともう一人、幸雲南塾卒業生が共同で立ち上げられました。睡眠預金等活用制度や補助金などを用いて、最先端のデジタル機器を備えたスタジオであり、かつ、子ども達の居場所としても位置付けられています。

「幸雲南塾に入ること、我々のチャレンジを知ってもらい、地域との繋がりを作ってくれたりなど、一緒に事業を成長させてくれたことがとても嬉しかったです。地域の繋がりは大きな価値だと感じました。」（杉村さん）

三田市ラボ。中間支援組織「NPO法人おっちラボ」の活動拠点

幸雲南塾の卒業生が事業を立ち上げるまでをサポートする団体として設立されました。おっちラボの役割は、起業者と地域の人を繋げるのもちろん、地域外ともネットワークを作れることだと、コーディネーターの佐野さんはいいます。

「事業計画で難しいのが収益面。どうしても地域の方をターゲットにした事業になりがちですが、もっと地域外を視野に入れて広い範囲で見えていく必要があります。」（佐野さん）

最後は感想共有。約半日間、共に濃い体験をした参加者からは

- ・仲間を作ることや、人材に投資する大切さ
- ・チャレンジを受け入れてくれる姿勢が新たなチャレンジを生む土壌を作っている
- ・変わるためには妄想したり楽しむ姿勢が必要

といった声が聞かれました。

「やってみよう」と自分の想いを共有する。「やりたい」という気持ちを受け止め応援する。続けていくための支援体制や制度。できることをそれぞれの立場でおこない、チャレンジしてきた「雲南の精神」が感じられた視察でした。

かなべ未来会議は区切りとなりましたが、みんなの一步を応援する旗印としてのビジョンができた神辺。「むすびの驛（えき）かなべ」をキャッチコピーにまちが動き始めている中で、自分ができることから考え、はじめてみませんか。



△まちのワーキングスペース「オトナリ」にて話を聞く様子



△ひかりサロン雲南にてショッピングリハビリ事業を聞く様子



△デジタル探究施設「ピコテラス」には、最先端のデジタル機器を備えている



△視察メンバーでの集合写真@木次駅前